



保護者・市民の皆さん **おおぞら幼稚園の廃止計画が進められています**



滝川の今後の子育てのために 大事な問題です。いっしょに考えてみませんか？

教育委員会があげている廃止理由について考えてみましょう

POINT 1 「公立幼稚園の役目は終わった。私立の受け入れは可能」と言うが……無宗教と低料金は 公立の役割です



市立おおぞら幼稚園は、送迎バスがない、延長保育が短いなど私立各園に比べ悪条件ながら、自由な教育、北電公園など恵まれた環境、無宗教など評価が高い幼稚園です。しかも、所得税13万5千円以下の低所得の課税世帯(共稼ぎ子ども2人で年収280万円～560万円位)では、私立に比べ2万円～7万円安く、非正規労働者が増えている状況での子育て支援として必要な幼稚園です

POINT 2 「経営が赤字」と言うが……わずかな赤字を理由に廃止する必要はありません(税金の使い方の問題です)

経営収支悪化と言いますが、2004年度56人在籍時で268万円、2005年54人在籍時で402万円、2006年51人在籍時で556万円の赤字です。この程度の赤字だけを理由に廃止する必要はありません。「赤字」というのは「市の税金で補っている」と言うことです。また、赤字の原因は、支出の92%を占める人件費ですから、職員の一部を嘱託職員化するなど検討の余地はあります(廃止されれば幼稚園の教諭は全員、一般職に配置転換されてしまうのです)

POINT 3 「入園児童数が減ったのは、魅力がないからだ」と言うが……入園者数回復の 可能性は十分あります

今年度の希望者が前年より10名減少した要因は、昨年1月に発表したタッグ計画案で、公立幼稚園廃止方針を出したことで保護者の間に、「いずれなくなる」との風評が広がったためであり、来年度はまた戻る可能性は高いと考えられます(公立廃止方針が市民委員会の大反対で、みずほ幼稚園のみの廃止に変わったことはあまり知られていません)



「進め方が一方的」……日本共産党の指摘に、教育委員会が謝罪し、進め方を見直すことを表明

- ★市議会総務文教常任委員会で、日本共産党は以下を指摘し改善を求めました
滝川市6カ年計画(タッグプラン)では公立幼稚園の今後について
「方向性を決定する際には保護者など関係者に十分な説明を行い、理解を得るように努めます。」としているにもかかわらず、
 - ① 保護者にこれまでまったく説明を行わずに、9月4日の保護者説明会でいきなり10月1日の募集停止方針を伝えるのでは理解を得られない
 - ② 9月5日から行われる「まちづくり懇談会」資料には、「おおぞら幼稚園を廃止します」と記載しようとしているのはひどすぎる
- ★これに対し教育委員会は
 - ① これまで何の説明もしていないことに謝罪を表明
 - ② 保護者会とまちづくり懇談会で理解得て進める → 募集1ヶ月延期(4日)
 - ③ 懇談会資料を「廃止する」 ⇔ 「廃止を考えているところです」に変更



「このままでは滝川市は子育て負担日本一になってしまう」と料金値上げなどに多くの市民は反対しています

今年の3月市議会、田村市長が提案した保育料金値上げ(平均24%)、私立幼稚園奨励費補助金削減(平均19%)に対し、滝川市子育て支援連絡協議会(7保育所保護者会代表らが参加)と私立幼稚園連合会が、最終的に納得できないと市長に抗議文などで示しました。昨年は約2万の署名の中で、議会では、日本共産党・市民クラブ・市民の声連合に加え、自民系と公明党も反対し、田村市長は方針撤回に追い込まれたのです。今年度は自民系と公明党、市民クラブの一部が賛成して負担増の道を歩みだした(4年の段階的計画)とはいえ、市民の理解はまったくといっていいほど得られていないのではないのでしょうか

続く世代のために「公立幼稚園を残そう」の声を

今、青年や子育て世代に非正規労働化が進んでいます。収入が少ないため「結婚もできない」「子どもを育てられない」という大きな悩みを抱えています。公立幼稚園までなくしてしまったら、これからの子育て世代はますます大変になります。今こそ「公立幼稚園を残してほしい」の声を上げましょう

こんにちは日本共産党市議団です
清水まさと・酒井たかひろ

日本共産党滝川市議会報告 2006年9月号外
発行 日本共産党滝川市委員会 大町1-1-25 23-0231



日本共産党
生活相談所
のご案内



お気軽にお電話を。無料弁護士相談も実施しています。
清水 雅人 空知町1-5-2 23-7924
酒井 隆裕 西町5-6-29 23-5898
日本共産党北空知留萌地区委員会 23-0231

速報

保護者会と議会の声に対し、**募集日 1ヶ月延期**を発表(4日のまちづくり懇談会で)



おおぞら幼稚園説明会で **遅すぎる説明、子育てへの理解不足**などに、保護者から批判集



教育委員会・・・市の財政問題 定員割れと赤字 少子化と公立の役割終えたなど説明し 理解求める

開会のあいさつにたった辰巳教育部長は、市の取り組みや厳しい状況として①職員を6年間に25パーセント削減するなど内なる改革②市税値上げなど市民負担増③市立病院建替えや学校耐震化に向けた財源確保の必要性④さらなる地方交付税削減予想などについて述べました。続いて佐々木学校教育課長は、①少子化が進む中で定員割れが続いている②私立幼稚園を補う目的で30年前に始めた公立幼稚園の役割を終えた③赤字の増加などと説明し、保護者の理解を求めました。

おおぞら幼稚園の保護者説明会が4日開かれました。25人の保護者が2時間にわたり活発に質問意見を述べました。保護者の主な質問・意見と答弁は以下のとおりです。

説明会が遅すぎる

■(質問)説明会があまりにも遅すぎる。数ヶ月前というのが当然でないのか(多数)

★(答弁)申し訳ないと思っている

今回の意見を反映させるのか 強行するのか・・・説明会を再度行うことに

■(質問)保護者が納得しない場合でも廃園にするのか、意見をどのように取り入れるのか ■(質問)次回、まったく同じ説明されるならもう来ない、今日の意見はどう反映されるのか

■(意見)次の説明会では、どうしたら残せるのか、どこを改善すれば良いのかという案も持ってきてほしい。私たちも考える ■(意見)説明会で出た意見・内容を議会にも伝えてほしい

■(意見)廃止する理由ばかりで、残す気が感じられない。こういう努力をしたが残せないという説明がほしい ■判断権限を持つ市長(設置者)に説明会に出てほしい

★(答弁)保護者説明会のほかまちづくり懇談会の意見を聞く(参考にできるのは9月初旬の2箇所のみ、残りは28日以後)。皆さんの意見は上の者に報告し、検討して次の説明会に臨む

低所得の家庭にとって 不可欠な公立幼稚園

■(意見)低収入の家庭にとっては絶対に必要だから残してほしい。廃園になったら私立には入れられない ■(意見)私立と公立では月に1万円と2万円の差、2人なら2万円と4万円の差

■(意見)私立との差は年間2万から7万円というが、送迎バス代など他の経費も入れると10数万円の差になる(私立幼稚園就園奨励費補助金をもらったとしても)

■(質問)私立との差は数万円というが、私立幼稚園就園奨励費補助金があるからであり、今後も残る保障、減額されない保障はあるのか。

★(答弁)当分はなくなる(根拠示さず問題答弁)。しかし、将来のことはわからない。

突然の募集停止は子育てへの理解なし 入園を予定している親がかなりいる

■(意見)弟妹をおおぞら幼稚園に入れる予定の親もいる。みずほ幼稚園がなくなるのでおおぞらに入れたくて今日出席している親さえいる。子育てをどう考えているのか。

■(意見)今回募集停止など考えてもいなかった。子育てには計画がある。失礼な話だ。本来なら廃止する何年か前に知らせるべき。

■(意見)去年の、みずほ幼稚園の説明会では、おおぞらについては「4年後までに検討する」と説明していた。こんなに突然廃止というのはおかしい。

18年度の入園児童数減少原因は「公立幼稚園廃止のうわさ」が広がったから

■(意見)18年度の入園者が少なかったというが、「おおぞら幼稚園がなくなるんでないか」と思った保護者が広がったため。「廃止はみずほ幼稚園だけ」ときちんと宣伝していれば、もっと入園していたと思う(多数)。

赤字というが、使うべきところに使ってこそ税金 市の財政改善に教諭一般職化は問題

■(意見)赤字だと言うが、税金は使うべきところに使うもの。ムダな使い方、いらぬものたくさん作ってきたではないか。

■(意見)廃園で教諭が一般職になっても、人件費として市全体としての経費はかわらない。逆にノウハウを生かせない仕事をさせるほうが市として損失が大きいのではないか。

その他の意見

■(意見)滝川は子育てしづらいまちになっていく。これでは、もうこれ以上子どもを産めない。

■(意見)私個人は、公立は安いから選んでいるのではない。少子化で私立に定員余裕ができたので役目を終えたというが、30年の伝統のなかで、おおぞら幼稚園の良さや必要性ができあがった。ゆったりとした教育、子どもと先生の距離が近いなどいい幼稚園だから選んでいる。